

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成 21 年 9 月 24 日（木）10:00～11:15
- 場 所 合同庁舎 4 号館 7F 742 会議室
- 出席者 菅大臣、津村政務官、相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、金澤議員、藤田政策統括官、梶田審議官、岩瀬審議官、大江田審議官
- 議 題 科学技術政策の最近の動向についての意見交換（最先端研究開発支援プログラムについて） 他

○ 議事概要

＜相澤議員よりプログラムの概要、選定過程などについて説明＞

- （本庶議員） ◇ 本プログラムの、どこを見直すべきかがポイント。方法は 3 つ。1 つは全部止めて全く違うことをする。2 つ目は同じ形でプログラムの目的を始めから見直す。3 つ目は選定した 30 件は認めて、全体の経費を適正な規模に調整する、というもの。
 - ◇ 30 課題を選んだ総合科学技術会議の決定を覆すのは政治的に大きな抵抗があると思われる。私としては 3 つ目の案が最も無難と思う。
 - ◇ このプログラムについては、額が過剰との意見がある。従来の日本の研究費は最大で約 3 億円/人、このプログラムでは現時点で約 18 億円/人と 6 倍になっている。予算規模としては 1/3 でもよいのではないかと。例えば 1/2 にしてまず 30 人の研究者に渡して、残りの 1/2 は今年度新しいプログラムや制度を立ち上げ、例えば女性研究者や若手研究者に渡すなども考えうる。
 - ◇ 多年度制など、このプログラムの良い点を制度化すると大きなインパクトを与える。
- （白石議員） ◇ このプログラムに関して、当時、麻生総理から言われたことは、「2,700 億円規模、30 人の中心研究者、自分が決める」ということであり、この点を覆すのはまさに政治判断。
 - ◇ 選考に問題があったとの意見も聞くが、全くそのようなことはないと思う。「拙速である」との声については、通常でも実質、週に 1 日程度しか時間のいただけない専門家を、夏季休暇時の 3 週間拘束して審査していただいたことを考えると決して拙速ではない。
 - ◇ 選ばれた研究者の顔ぶれについての意見については、このプログラムは絶対に失敗してはならないものということもあり、今が盛りの、この人に任せれば大丈夫な研究者を選んだということもある。中心研究者がいないものには資金が行かないという問題もある。
 - ◇ 選考過程はフェアなものだったが、額が過大との声もあるので、今後精査して、額を絞る必要がある。また予算交付について、例えば 1 年目でかなり絞った額を交付しておいて、2 年目以降に、成果を見つつ機動的に投入していくことも考えられる。
- （奥村議員） ◇ このプログラムの従来にない新しい点は、多年度であることに加え、研究者が支援機関を選べる点である。全ては研究者の責任となり、従来の国の制度ではなかった。こうしたことは評価すべき。
 - ◇ このプログラムでは、中心研究者を選ぶという性質上、システムや組み合わせの技

術、あるいは多くの人に関わる研究が選ばなかったということが課題。そういう設計もあって良いと思う。

◇ また、個別の研究費では、本当にこれだけの額が必要なのかとの懸念もある。研究の目的や目標を阻害しないことを前提に、金額の規模を見直すことは必要。

◇ 選考については、選考にあたって重要なのは、研究開発の目的・目標・レベル感。これは専門家でなくともわかる。

◇ 今回選ばれた 30 課題は基礎から出口を目指したものといっても、基礎的レベルのものであり、研究者の能力に依存する面が強いものである。

◇ こうしたものの選考には、必ず賛否両論の意見が出る。少なくとも私は今回の選考プロセスは間違っていないと思う。

(金澤議員) ◇ このプログラムについては、最初の段階で、学術会議の会員に冷静に対処するようにメッセージを出した。

◇ 国から何らかの資金を得ているがこのプログラムに選考された場合、今まで受けていた研究費は受けず、このプログラムの資金のみで研究開発を進めることとなっているが、そうではなくて、他の資金を受けても良いことにして、追加することにすれば、現在の 1/4 でも 1/5 でも研究は進めることができると思う。

◇ 選考された 30 人をやめるのは相当の理由がないと無理ではないか。適正規模に見直した後の、残りを新政権で有効利用すればよい。ただしその場合でも、本予算ではぜひ、科学技術・学術にきちんと予算措置してほしい。

(菅大臣) ◇ 私としては、内閣として 15 兆円の補正予算全体を見直す立場と、科学技術政策担当大臣としての 2 つの立場がある。同じ人間なので使い分けるつもりはないが、私としては前向きに、何らかの形で維持しながら進めていく方向で報告したいと思っている。最終的には総理のご判断になるが。

◇ 2,700 億円については、良い形、何らかの形で維持したい。個人的見解ではあるが、その方向で報告したい。社会的に見て、また専門家からみても正しく使われるということであれば、より良い形があるなら、過去の経緯も尊重しながら考えていきたい。

◇ 私の責任で、大枠は今のままで、進め方について、皆さんに検討をお願いすることになるかもしれない。

◇ 場合によっては、選考された 30 人に出す分を適正に圧縮して、残りを他に振り分けることも検討する。例えば、総理の国際公約である CO₂ の 25% 削減は大変なことなので、振り分ける先に、多少意識することもある。CO₂ の 25% 削減は、日本が世界の環境技術をリードするチャンスであり、これを後押しすることができればいいと思う。

(相澤議員) ◇ このプログラムの当初の目標は、30 人を選考したことで達成できたと思う。

◇ 現在、科学技術はターニングポイントにきている。環境問題ははじめ研究者の専門分野を越えるような課題にチャレンジする研究をすることは、研究者は実は不得意。自分の得意分野のみで研究を進めるのではなく、分野を融合して課題に向かって進むことを総合科学技術会議でリードし、研究者の専門の壁を突破すべきと考えており、その方向で議論している。

(金澤議員) ◇ 30 課題は圧縮しても全体は守るという、大臣から心強い御発言をいただいた。

◇ 選考された 30 人に渡した後の残りは民主党政権の方向と合致した使い方をすべき。1 つは先ほど発言あった環境分野。もう 1 つは、若手研究者や女性研究者へのまなざし。さらには、いわゆる基礎研究への配慮である。やり方としては、30 課題を選んだ 60 課題の残りを参考にするようなやり方もある。

(奥村議員) ◇ 日本の強さは「システムの中で新しいものを創る」こと。例えばハイブリッド技術。

ハイブリッドをイノベーションと認めなければダメ。システム技術を大事にする発想がなければイノベーションは創出されない。

- ◇ また、従業員が高い教育を受けていることも日本の強さ。集団の教育レベルを向上させることも重要。補正とは直接関係ないが、こうした視点を来年度の科学技術政策、イノベーション政策に取り入れるべき。

(白石議員) ◇ 環境や健康は成長戦略に関係する。成長戦略の一環として科学技術を捉えることが重要。科学技術政策のみが孤立してはならない。

- ◇ また、若手研究者の育成も課題。若手研究者が海外留学しないことや、成果の出やすい研究を選び、スケールの大きな研究を目指さないことなどが課題。

(菅大臣) ◇ 先生方の御意見について、9月4日の決定との関係はどうか。

(藤田統括官) ◇ 各課題について、予算規模が水増しの指摘はある。成果が出ることを前提に、適正な額になるよう、きちっと精査したい。

- ◇ 9月4日の支援会議でも議論になったが、精査の結果、資金に余裕が出た場合は、新政権と相談しつつ、支援会議でその活用について決めていきたいと申し上げた。

(菅大臣) ◇ 「余裕が出たら」ではなく、先生方の御意見は、課題毎の額を1/3や1/4に見直し、枠を2つに分けるというもの。枠を2つに分けても、9月4日に（総合科学技術会議で）決定した文の範囲に入るのかどうか。

(藤田統括官) ◇ 個人的には、枠を分割した場合でも、9月4日に（総合科学技術会議で）決定した文の範囲に入ると思う。

(本庶議員) ◇ 口頭であっても、大臣から、このプログラムを恒久化したい、と表明いただければ、大変インパクトがあると思う。

(菅大臣) ◇ 他の分野の予算についても、年度末に無理して使い切るようにしていることが問題であり、一般的に多年度にしたいと思っている。

(金澤議員) ◇ このプログラムに選考された人は、今、JST等からもらっている研究費を返上することとなっている。返上した予算分は、次年度以降、財務省がカットしてくる可能性もある。この基金で研究の全部をやれということについては見直すべき。

(相澤議員) ◇ その件については、全体予算が圧縮される件とあわせて、中心研究者とも調整のうえ、整理する必要がある。改めて検討すべき。

- ◇ 今回のプログラムについては、一課題あたりの研究費が大きいということが前提となっており、応募した研究者は大型の研究費が得られることを念頭に、研究目標などを設定して申請してきている。30課題への研究費総額を判断するにあたっては、そのことも踏まえてご検討いただければと思う。

(菅大臣) ◇ 今の段階で具体的な予算についてどうするかは決められない。

- ◇ 担当大臣としては、2,700億円は維持する方向で話を進めたいが、30人に2,700億円全額を渡すのではなく、別の形も考えうるので、その際には、改めて先生方に相談させてほしい。

- ◇ 9月4日の決定文と齟齬がない、ということであれば、その方向で進めたい。

(白石議員) ◇ 大臣がお忙しいのは承知しているが、この有識者会合には、できるだけ出席してほしい。大臣の代理ということであれば政務官にも来ていただきたい。

- ◇ 有識者議員だけで議論するのではなく、政治判断が必要な場合もある。

(菅大臣) ◇ いつも、という訳にはいかないが、出来るだけ出席したい。

(金澤議員) ◇ 総合科学技術会議は存続するのか。

(菅大臣) ◇ 経済財政諮問会議の問題があるが、総合科学技術会議に関しては、今すぐにどうするとの認識はないが、民主党の主張の過去の経過も含め調べておく。当面は、文

部科学大臣と意見交換しながら進めていきたいと考えている。

以 上